

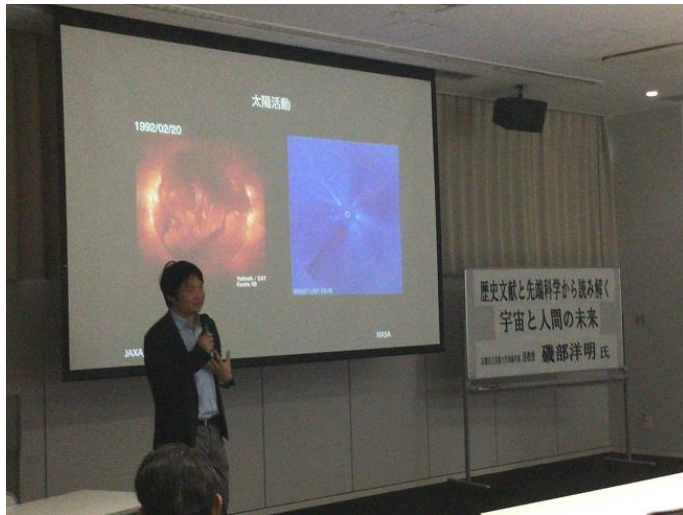
行事報告

2019年11月2日（水）午後2：00～3：30

読書週間講演会

「歴史文献と先端科学から読み解く宇宙と人間の未来」

令和となって最初の読書週間講演会は、宇宙物理学者で京都市立芸術大学美術学部准教授の、磯部洋明（いそべ・ひろあき）先生をお迎えして開催しました。



太陽物理学がご専門の磯部先生は、2008年京都大学宇宙総合学研究ユニットに着任当初より、様々な分野の専門家との学際的な研究の開拓に取り組んでこられました。

また学問のみならず、お寺、落語、アート、お茶、書道、香り、陶芸等とコラボした企画を手がけられるなど、ユニークな活動を続けられており、現在は京都市立芸術大学で唯一の自然科学系教員として活躍されています。

講演会では、磯部先生ご専門の太陽物理学の観点から太陽活動についてお話しいただいた後、歴史文献がどのように太陽物理学の研究に関係するか、歴史文献から見える太陽活動についてお話いただきました。その後一番メインのお話として、人間が宇宙に出ていくことが何を意味するかについて、宇宙科学に加えて人類学や倫理学など、複数の人文科学の観点から、詳しくご説明いただきました。最後に、磯部先生が調査を続けられている、ハンセン病療養所長島愛生園における天文観測についてもご紹介いただきました。

自然科学がご専門でありながらも、人文系科学者との共同研究を続けられてきた磯部先生ならではの、宇宙と人間や社会についてたいへん射程の長い、深いお話を聞くことができました。聴講された方も「今日のような話は初めて聞いた」「とても興味深かった」「感動した」「あっという間でもっと話を聞きたかった」と感想を述べられ、たいへん好評のうちに終了しました。



☆ 所蔵しています！ 磯部先生の著書

『宇宙を生きる 世界を把握しようともがく営み』磯部洋明、小学館、2019